

中高年層の社会的活動の特徴と課題（第2報）

—神奈川県における「ボランティアグループ等活動事例の調査」を通して—

○鈴木敏子* 大泉伊奈美** 趙偉偉*³ 斉藤ゆか*³

(*横浜国立大 **飯田女短大 *³横浜国立大・院)

目的 第1報に続いて第2報では、グループによる活動状況の特徴から中高年層の社会的活動の課題を探る。社会的活動が個人でされている場合とグループでされている場合の特徴や課題の相違も明らかにする。

方法 (財)かながわともしび財団が、第1報で分析した「ボランティア等活動事例の調査」と同時に行った「ボランティアグループ等活動事例の調査」を分析する。調査は、神奈川県でボランティア等の活動をしている1,323グループを対象に、各グループの代表者に対して1997年12月～1998年1月にかけて郵送法で実施されたものであり、回収数は681、その内有効分析数は635であった。主な調査内容は、活動へ至った経緯、活動の内容・状況、組織の状況、活動の結果、公共機関・団体・行政に対する要望である。

結果 グループの代表者の性別は、男性208(32.8%)、女性425(66.9%)と、女性が男性の約2倍であった。代表者の年齢は、男性の場合がより高い年齢層に分布しており、平均年齢は男性の場合68.1歳、女性の場合60.7歳であった。会員の年齢層も、男性が代表者のグループの方が高くなっている。5～24人の会員のグループが過半数である。そして会員に男性がいないグループが4割あるのに対して、女性がいないグループは2.4%だけである。全体では7割近くのグループが「高齢者・障害者等の手助けなどの福祉活動」をしているが、女性代表者のグループでは76%、男性代表者のグループでは53%と差があり、男性代表者のグループの場合、「趣味・学習・教養」型の活動や「仲間づくり活動」が多くなっている。3割が助成金も事業収入もなく、資金的援助の要望が一番出されている。